

# 公園内で見られる植物

写真は6月2日(土)  
自然観察会で見られた  
植物です



キンギンボク (スイカズラ科)

名前の由来は、花が初め白く、のちに黄色になり白と黄色が混じってくるので、金銀木と付いたそうです。別名ヒョウタンボク。これは果実が2個並んで瓢箪のような形になるのでこの名が付いたようです。おいしそうに見えますが、有毒で食べられません。今年は実の付きが早いように思います。



### イヌマキ (マキ科)

雄花が沢山付いています。葉はさわっても痛くありません。庭の生け垣によく利用されていますが、名前の由来は、昔、スギを真木（本当の木の意味）と呼び、スギより劣ると考えて犬マキと呼んだようです。



### ハクチョウゲ (アカネ科)

中国原産の常緑低木で、よく枝分かれし庭木や生け花に向いています。美しい花ですね。和名の由来は丁字型の白い花が咲く事からきていて、白鳥とは関係なく当て字です。かすみ草の花に似ていませんか？



### スイカズラ (スイカズラ科)

花は2個ずつ付くものが多い、甘い匂いがします。昼より夜の方が香りが強いそうです。これは夜行性のガに受粉をしてもらうためではないかと考えられています。別名、金銀花は、花が白から黄色に変わる事から付いたとか？中国名の忍冬（ニンドウ）は冬にも葉が緑色を保つことから付いたそうです。



### ソヨゴ (モチノキ科)

名前の由来は、風が吹くと乾いたような質感の葉がソヨソヨとなるからです。花は小さく目立ちませんが、とってもかわいらしい花ですね。冬期には果実が熟し赤くなりとても目立ちます。

雄雌異株なので、近くに雄株がなく雌株だけだと実が付かない事もあるようです。

島根県では、火にくべるとパチパチ音がするところから「フクラシバ」と言います。



ネジキ (ツツジ科)

名前の由来は、幹がねじれる事からネジキと名づけられました。小枝は冬期に赤く目立ち、生け花に向きます。白い花は壺状で下を向き一列に並んで咲くのが特徴です。とてもかわいい花ですね。でも葉には、アセビに似た有毒成分が含まれています。



ヨウシュヤマゴボウ (ヤマゴボウ科)

北アメリカ原産の多年草ですが、日本各地どこでも見られるようになりました。花は白く果実は熟すと紅紫色の汁が出る事からアメリカではインクベリーと呼ばれて染色にも使われます。但し、実は有毒ですので、食べてはいけません。



ツルマンネングサ (ベンケイソウ科)

マンネングサの仲間は生命力が強くてめったなことでは死にません。標本にするために新聞に挟んで押してもその中で成長する事があるそうです。その生命力の強さから万年草の名が付いたとか？肉厚の葉の中に養分を蓄えて乾燥にも対処します。



アオハダ (モチノキ科)

名前の由来は、灰白色の外皮は薄く爪で簡単に剥げ、緑色の内皮が現れるので青膚と名づけられました。秋に鮮やかな赤い果実が付きます。短い枝が発達するのが特徴です。近年、枝ぶりが涼しい事や紅葉の美しさ、赤い実が観賞価値があることから、庭木として植えられるようになりました。